

大人も子ども
遊んで学べる

コープdeスマイル・フェスタ開催

8/26(木) in 茨木クリエイトセンター



《よどがわ》のいろいろな活動を紹介し、楽しく体験・交流する場として、今年も8月26日(木)茨木クリエイトセンターにて開催しました。夏休みという時期もあってお子さんも多く、200名以上の組合員・ご家族が参加し、にぎやかなイベントとなりました。

多目的ホールでは《よどがわ》の活動を「ご紹介」

平和コーナーでは、NPT代表派遣報告やピースメッセージの展示や、9条の会による被爆者の証言の朗読を行いました。平和について考えていただく場となりました。またユニセフによる封筒づくりで寄付を行うブースを用意し、気持ちをこめて作る参加者の姿がありました。

環境コーナーでは、活動報告と共に、折り紙でカブトムシなど生き物をリアルに作った作品を展示し、生物と環境の関係を子どもたちにわかりやすく伝えました。また不要になったペットボトルを使った、けん玉作りコーナーは大盛況でした。地域からは、環境と街づくりを考える「ECOまちネットワーク」や「よどがわ」から「さわやか市民共同発電所」の紹介を行いました。

文化グループは、使用後の牛乳パックと和柄折り紙を使って「カード入れ」作成を行いました。子育て支援委員会では「今求められている子育て支援とは何か」とアンケートを実施し、託児ルームで絵本の読み聞かせも行いました。その他行政区委員会やサークルも活動内容の展示をしました。



各活動を皆さん興味深く見学しました

別室でもいろんな体験イベントを開催!



ソーセージの皮がやぶれないように...

今回オプシオン企画として、夏休みの宿題の参考に、生協のハムでおなじみのタケタムさんを講師に迎えて「親子ソーセージづくり体験」と「パナソニックOB会さんご協力による「電子部品を使ってメカ虫づくり」」を行いました。ソーセージは口いっぱい肉汁が広がり「ハンバーグみたい」とパクパクもぐもぐ笑顔で試食し、メカ虫もかっこいいできばえに満足顔でした。

この他に、福祉からくらしの助け合いの会「ほのほ」の活動紹介コーナーや、点字グループ「どんぐり」による点字板を使った点字の名刺づくりを行い、盲導犬ブライデー号の仕事ぶりに親子で関心していました。パール企画さんからは、乳がん検査啓発ブースの展示がありました。



メカ虫は子どもたちに大人気

喫茶コーナーで服しながら生協商品の紹介

ゆつくりくつろいでいただきながら、生協商品にふれていただくこと、喫茶コーナーを別室に用意しました。わかさ共同作業所の手作り焼き菓子では募金を募り、小川珈琲さんではおいしいコーヒーの試飲でほっと一息。生協商品コーナーではバックジが統一された「コープベーシックシリーズ」の展示・説明を行いました。

終盤にジャグラーTOSHさんによるジャグリングショーが多目的ホールにて行われ、お子さんも舞台上に飛び入り参加でさらに盛り上がりました。また毎回大人気の「お楽しみ抽選会」では、スタンプラリーで3つスタンプを押した申込用紙の番号が次々読み上げられ、その度に歓声が上がり、うれしはずかしいお顔の子どもが生協商品を受け取り、終始にぎやかなまま、閉幕となりました。



点字初体験で皆さん真剣

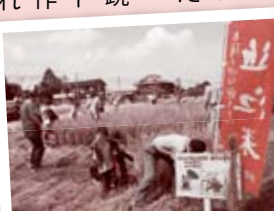
暑かったけど、楽しくエコを学べました

稲刈りバスツアー

9月11日(土) 場所：JAグリーン近江

5 月中旬に「環境こだわり米「滋賀コシヒカリ」の産地JAグリーン近江にて田植えを行った稲が収穫の時期を迎え、大人18人と子ども14人合計家族32名の組合員が稲刈りに参加しました。5月の田植えを行った参加者は、立派な成長にびっくり感激。稲の刈り方の説明を受け、さっそく自分たちで刈り取り作業に。刃にギザギザのついたカマはよく切れて、イネはザックリ音をたてて刈り取ります。小さい子どもたちはのこぎりのように切っています。まだまだ暑い中でしたが、生産者の方の協力もいただき、2アール弱の田んぼを30分ほどですっかり刈り完了。

刈った後には、バツヤカエルが驚くほどたくさん飛び跳ねています。蛇まででてくるハブニングがあって、ちよっとドツキリ。農業の使用は2回だけとのことでした。最近の稲作は農業の使用回数も減り、かつては昆虫や小動物が見られなくなった時期もありましたが、最近では虫も飛ぶほどに回復しているそうです。ご厚意で予定外のオプシオン芋掘りもさせていただき、お昼はおいしいおにぎりとソーセージバーベキューに舌鼓。昼過ぎには涼しい風も吹き、ようやく秋への移り変わりを感じる事ができた稲刈りでした。



子どもの「バツ」の音があちこちから



「大変だったけど楽しかった」日焼けしたお顔に笑顔が

親子で学んだリサイクルトイレペーパー工場見学

8月19日(木) 場所：株式会社リパス

猛 暑の中、夏休みの自由研究や環境を考えるきっかけにと参加した親子と、環境月間プロジェクトメンバーを含め総勢33名にて、泉佐野市にあるリサイクルトイレペーパー製造専門の株式会社リパスに向かいました。一同を出迎えてくれたのは、大阪営業部の五十楼(いそずみ)さんの笑顔と、駐車場に隣接されたリサイクルトイレペーパーの原料である回収された牛乳パックのストックヤード。バスよりも高く積み重ねられているのを背景に、バスから降りて親子で写真撮影がさっそく始まりました。会議室にて工場見学前に製造工程の説明を受けました。工場内は機械の音で説明が聞こえないため、五十楼さんのマイクから電波で説明する声が聞き取れるイヤフォンセットが配られました。工場内に入ると、汗が噴き出るほどの暑さ。この中で働く人にも関心が高まり、説明を聞きながら実際に働いている方にもお話を聞く参加者の姿がありました。子どもたちも大きな機械と、できあがっていくトイレペーパーを熱心に観察し、お母さんたちも汗をぬぐいながら写真撮影し、工場見学後の質問タイムでも子どもと同様にたくさん質問をしました。「できたての紙を巻いた2mのジャンボロールが大きかったね」「生産工程で出てくる「ゴミ」もリサイクルで使い切るところがエコだと思った」などの感想が寄せられました。各ご家庭で環境について考えていただく良いきっかけになったようです。



大きなジャンボロールにびっくり!

NEWS FILE

ニュースファイル

稲刈りバスツアー
トイレペーパー工場見学